

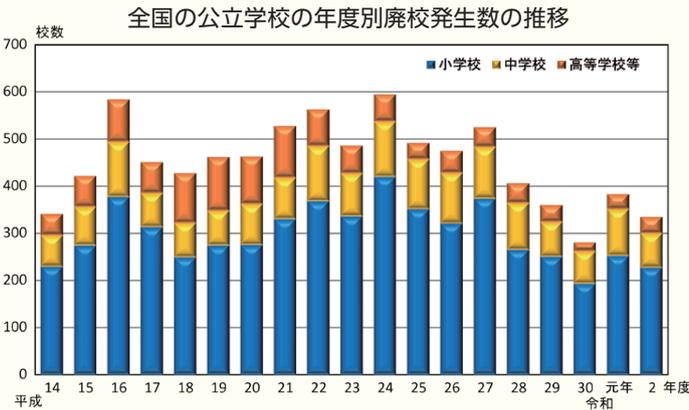
廃校の活用で地域の賑わい再び



資料提供：福知山市

少子化に伴う児童や生徒の減少等により、毎年、全国で廃校が生じています。廃校は自治体にとって貴重な公有財産であり、地域の賑わいや雇用創出につなげるために有効活用している事例も見られます。

京都銀行と京都北都信用金庫は、令和2年8月に京都府福知山市と「公民連携促進に関する連携協定」を締結しています。その一環で行っている廃校活用の事例紹介・視察ツアーの様子をご紹介します。



出所：文部科学省「令和3年度公立小中学校等における廃校施設及び余裕教室の活用状況について」より弊社にて作成

全国・福知山市での廃校状況

左図では全国の公立学校の年度別廃校発生数の推移を示しています。少子化の影響により毎年平均で400校超の学校が廃校していることがわかります。このうち京都府では、平成14年度から令和2年度までの間に162校が廃校になっています。福知山市は京都府の北西部に位置しており、高速道路や鉄道が多く通る北近畿の交通の要衝



旧中六人部小学校を活用し、「THE 610 BASE」を開設した、井上(株)の井上大輔社長

となつていきます。京都・大阪・神戸などの大都市からアクセスも良い環境にあります。その福知山市も例外ではなく、複式学級の解消により教育環境を整えることを目的として、平成24年から令和2年度の間に16校が廃校になりました。京都銀行では、京都北都信用金庫とともに福知山市と連携協定を締結し、過去より民間企業による未利用公有財産の活用を推進するために「福知山市『廃校』マッチングバスツアー」を実施しております。今回は、7月に実施した「公有財産活用フェア&現地見学ツアー」の様子をレポートします。ツアーでは実際に廃校を活用している民間事業者2社の事例を学ぶとともに



2024年春より製造を開始したクラフトビール醸造所。地元産の麦を活用したビールも製造している

に、保育園等の未利用の公有財産の現地見学を行いました。ツアーの様子

ツアー当日は現地見学に先立ち、事例紹介として講演&トークセッションが行われました。まずは、福知山市での廃校活用に先駆的に取り組みを行われている井上(株)の井上大輔社長が講演されました。福知山市で電気設備資材販売や工事などを営んでいるなか、次の10年を考えるうえで今までと違う地域事業をやっているかと考えました。そこで社員から出た意見が多かったのが「農業」でした。自社のシステムエンジニアを活用してITを取り入れたいちご栽培を行おうとしまし

た。しかし、栽培に適した大規模な休耕地が見当たらないなか、通りがかりで見つけた大規模な土地が廃校の校庭でした。

市役所に相談に行くと、「地域住民の理解が得られることが必要」ということで、地域住民の方々と話をしたところでも協力的だったこともあり、令和2年に旧中六人部小学校に「THE GIO BASE」を開設しました。

現在は、校庭でのいちご栽培に加え、カフェ、屋内のスケートボード場やクラフトビール醸造所などがあり、地域を巻き込んだ誰でも入りやすい空間になっています。

次に(株)京織の田中元子会長が講演されました。福知山市の廃



旧菟原小学校を活用し、倉庫兼作業場とされている(株)京織の田中元子会長



(株)ウエダ本社の岡村充泰社長(写真右)を交えたトークセッション



旧中夜久野保育園の現地見学風景



園庭から見た旧川合保育園の建物



大雲記念館の現地見学風景

校活用では初めてとなる市外の事業者の方の活用事例です。

明治33年に京都市で創業した呉服商で、会長が着物のレンタル事業を立ち上げたところ、各大学から依頼が殺到。「京都さの館」を中心として卒業式袴レンタル等を手がけています。

卒業式の袴だけでなく、成人式の振袖や観光用の着物のレンタル等を全国展開されており、それを保管・補修を行うための場所として、交通の便が良い広い場所を探しておられました。そこで以前開催した廃校マッチングバスツアーに参加され、廃校活用に興味を持たれ、令和4年に旧菟原小学校を倉庫兼作業場として活用を始めました。

現在では、地元の方9人を雇

用されているほか、障がい者雇用も積極的にされてレンタル着物の補修作業をされています。今後は校庭を地域交流を行う憩いの場として創りあげようとしております。

講演後、(株)ウエダ本社の岡村充泰社長のモデレートによるトークセッションを行いました。廃校を活用するにあたっては、新たな用途に沿った建築条件や消防設備要件に変更する必要があることや老朽化した設備の更新等、さまざまな課題はあったことや、しかし、地域の方々の理解と応援や福知山市の協力もあり、乗り越えることができました。経験談などを話していただきました。

午後からの現地見学ツアーで

は、保育園2施設(旧中夜久野保育園、旧川合保育園)と福知山市が保有している1施設(大雲記念館)の見学を行い、事業者の方々は自社での活用を思案されている様子でした。

今回現地視察した2つの保育園は「福知山市未利用公有財産活用ビジネスプランコンテスト」として9月末まで公募を行いました。最優秀提案者には福知山市から建物の無償譲渡を前提とした優先交渉権が付与される予定で現在選考中です。これからも地域の賑わいにつながる廃校等公有財産の活用が期待されます。

京都総研コンサルティング

調査部長 檜舘孝寿
研究員 藤木雄介